

191

こんにちは。塾長の大井です。

先日、大学1年になったかつての教え子2人が、3年ぶりにTOPに訪ねて来てくれました。

1人は女子学院に受かったTさん、1人は桜蔭中で涙をのみ、公立中から愛光高校（愛媛のトップ校）に進んだYさんです。

当初は1時間弱ほどの時間を予定していたのですが、2人は私たちとの思い出をとても大切にしてくれていて、大いに弾んだ話は2時間に及びました。

今Tさんには外国で医師として働きたいという目標があり、全ての授業を英語で受講できるという医学部に進学していました。さらに、塾講師のバイトで中1の英語を集団授業で教えているそうです。

もう1人のYさんは、浦和明の星中などに合格したのですが、その合格を蹴って高校受験し、結果東京大学に合格したそうです。（同じ高校からは2人だけという中での快挙でした。

話すにつれて、2人が懸命だった中学受験当時を今もとても大切に思っていること、そしてそこで学んだことを大きな糧にして進んでいることを強く感じました。そこで、

「君たちのその生の声を、ぜひ小6に話してほしい。」と依頼しました。

するとYさんは、「私なんてとても。Tさんどうぞ話して。」と照れながら言っていましたが、いざ小6の前に立つと様子が変わりました。

その話しぶりはまさに自信に満ちあふれたものでした。

(次回につづく)

2018年9月24日

大井雄之